



指先の幻

「前編」

黒木 桜

R-18

[Mirage of the fingertip]

D. CONAN Fanbook #03
Akai*Amuro
Presented by Beccoro

【前編】

指先の 展覧会 来友



転生もの

赤井と安室は前世で結ばれてた。

幼い頃から
妙な夢をよく見た

こことは別の
よく似た世界で

俺は30を超えた
いい大人で

酒の名前で呼ばれていた

繰り返し見るその夢は

記憶の底で自分が
生んだ妄想なのだと
思っていた――



「こちら」と「あちら」の
世界が別物だと認識
出来るようになったのは

猫をかばって
飛び出した

小学5年の
ことだった

あれ…
ひかれるの
2度目…?

リインカーネーション…
いわゆる転生

似た名前の町は
あるけれど

この世界には「米花町」も
「杯戸町」も存在しない

それから俺は
かつての知り合いを
探してまわった

ボウヤ
大丈夫？

いま救急車を
呼んで…

いや
必要ない

それに俺は
ボウヤなんて
歳じゃないぞ

え？

やっぱり病院に
行った方が…

70
前の足は
はこんでる…

むこうの出来事も
今なら笑って話せた

再会して

けれど…

皆少しづつ
境遇を変えて

シム…
私のことわがらの？

あーんた
ホサでい
ちよって！



『降谷零』だけは
どんなに探しても
見つからなかった

此処では
ないのなら

彼の魂はどこへ
行ったのか…



業を贖罪する為に
どこかで苦しんでいるのか

それとも既に
消滅したのか…

脳裏の考えは
止むことがなかった

そのまま一心不乱に
彼を探している間に
年月は流れ…

20年後

なあ、この子供
お前が探してる
子に似てないか

可愛いだろ？

××孤児院に
居るらしいが

少々問題の
ある子らしくて…

一目で零くんだと
直感した

彼は天使に生まれ
変わっていたのか…

少し
出てくる

おい！
話はまだ…

バタバタ

失礼

面会を依頼して
いた者だが…

ボール!?



近よるな！

20年越しの再会は
…最悪だった

コラ！
零くん！

すみません
人見知りで
初めての人にはよく…

ほら
ご挨拶は？

こいつが先に
名のるべきです



変な夢の話を
するから

よく周りの子に
からかわれて…

つい先日
も大人3人がかりで
止めたんですよ

それに殴るとき
とても子供とは思
えない…



記憶はまだ
戻ってないか…

しかし写真とずいぶん
印象が違うのが
気になるな…

すまない
挨拶が遅れたな

俺は赤井秀一

よろしく



あの…
本当にこの子で
いいんですか？

手のかかる
子ですよ…

かなり…

あ…マザー
またこの話…
いやだな…

この話をすると
「じゃあ、やめます」って
大人は帰っちゃう…

だってみんなが
僕のことウソつき
だって…

ワルい子と
かぞくに
なりたい人は
いないんだ…

はい

うそつき
じゃ…
ないの…

零くんは
黙ってて！

その夢は嘘じゃ
ないんだろ？

仲間に立ち向かうのは
敵に立ち向かうより
勇気があるんだ…

それなのに

ちゃんと喧嘩が
できるなんて
立派じゃないか

きっと君は
正義の味方に
向いているな

せ…せいぎの
みかた…

僕に…
なれるかな？

なれるさ



いきなり飛びつく
奴があるか

あかいは今日から
ぼくのこぶんに
してあげます♪

いや零くんが
俺の養子に
入るから…

どちらかと言えば
逆…かな…

あの…
お手続きの方を…

こうして
俺と零くんの
生活は始まった



この20年で
得たものの全てを
捧げてでも

彼のことを
守っていききたいと思った



お前もずっと
探してただろ！

なんで
そんなこと…

思い出したく
ないことも沢山…
思い出しちゃうだろ

だって

俺に
会ったら

…それで折れるほど
彼は殊勝な玉には
見えないが

はい、でたー

お前みたいに
すぐ割り切れる
人ばかりじゃ
ないんです！

ちなみに俺は一度
死んでると知って
二日は飯食えなかった

そういう
ものか…？

あれは昔から
周りに弱点を
さらそうとしない

だから記憶が戻っても
今と変わらず

笑って接して
くれると思う
表面上はな…

でも



元幼馴染としては
横に居ることが
出来ないのは
残念だけど…

俺に会う度に陰で
辛い顔させるより
マシだ



あいつはその分
いつも独りの時に
泣くんだよ

あの夜の真相も
薄々感づいて

ずっと自分を責めながら
生きてきたんだと思う



何も知らない
ゼロが笑って
いられるなら…

記憶が戻らないままで
居てほしい

一日…一秒でも
少しでも…長く…



だから

……
ゼロのこと

頼んだよ…

スコッチ
……

泣いてるのか？

泣いてない！

ライのばーか
空気……よめよ……

写真送るよ……
あとムービーも

毎日とはいかない
だろうが……

それなら

少しは
気が紛れるか？



ライのこういう所が
気に入らないって
言うんだろぅな……





だから君が
泣く必要なんて
ないんだ...

いつか…夢の先を
すべてを思い出す
日が来たら…

また友達に
戻れるといいな



ぐったり

零くんを
引き取って一カ月

俺はかなり
参っていた

なぜなら…

家の中では下の世話が
ロクに出来ないからである



だあいすきな
あかいになら

はむ

えっちなこと
されても
いいですよ



このままじゃ
ダメだ…

俺を信じて託した
スコッチにも顔向け
出来なくなる…

性欲を退散
させるためには…
外でスツキリ
するしかない…か



…などという妄想を
してしまうほどの
始末である

彼には悪いが急に仕事が入ったことにしよう…

零くん

悪いが急用が出来てしまって…
少し外に出てくるよ…



確かに前世では
身体の関係もあった

だが今の彼は
まだ子供…

手を出して
しまう前に距離を
置くべきなのだろう…



え…今から
ですか？

ああ

帰りは遅くなる
だろうから

俺が出たら
しっかり戸締りしろ
留守は頼んだぞ

ほい



まって



ぼく…

一人じゃ寝られ
ないんです…

あかいは…一緒に寝て
くれないんですか…？



おでかけ

明日じゃ
ダメなんですか？

このまま
流されてはいけない……

離してくれ

ばーん

あ……

すまない
怒鳴る
つもりは……

ごめんなさい

甘えすぎ
でしたよね？

僕ら本当の親子
じゃないのに

留守番……
良い子に
してますから

零くんを
傷つけた……

彼が人からの拒絶に
過剰に弱いことを
知っていたのに……

彼の笑顔を
見ていられなくて

俺は返事もせず
部屋から出て行った

いっそ怒って
くれたら楽なのに……

バタン



あかいは僕より
女の人が良いんだ…

僕は男の子だから
大きくなると

声も低くなるし
ひげも生える

大人になったら
あかいは僕を
追い出すかな…

僕が大人の体にな
るのは何歳だろ？

女の子に産まれたら
よかったのに…

一人に戻ったら

きっとあの夢を
毎日見るんだ

また捨て
られるのは

いやだな…



孤児院にいる頃
一人で寝ると
怖い夢をよくみた



その夢で
大人の僕は

仕事の為に
何でもした...



僕の周りの人は
どんどんあの世に
行っちゃって...

最後はいつも

階段の先で



お友達が死んじゃう夢



朝になって
起きると

自分の手が
まだ小さいことを



一番に確かめて
安心した



あの夢…思い出すだけで
気分がわるい…

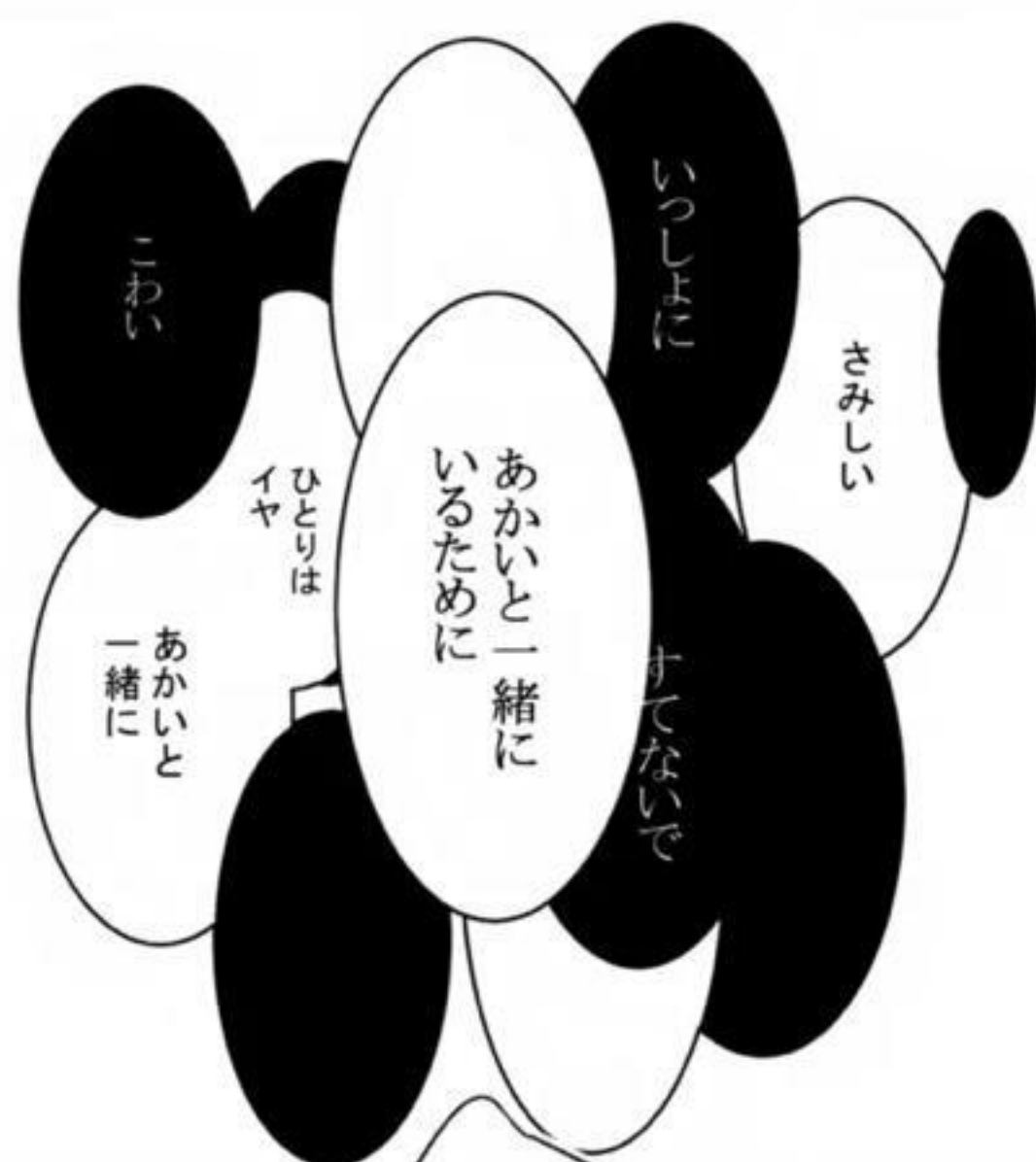
もう…ひとりの
夜はいやなの…

あかいに
捨てられたら…
またひとりに戻るの…？

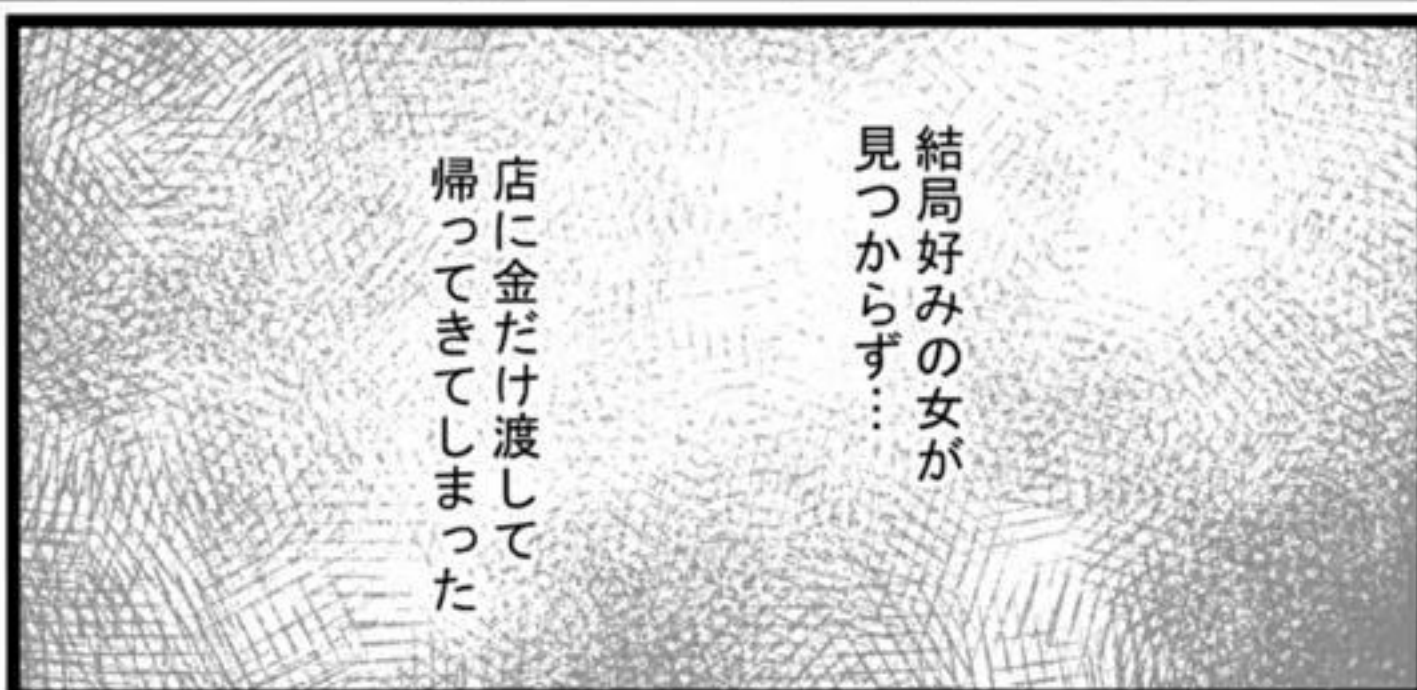


あかい

あかい



ぼくは何を
すればいい…？







やっってしまった……

欲求不満が
溜まっていたとはいえ

養子にフェラ
させて……顔射……

親権剥奪
!?

あれ……でも
零くんの
様子が……

これが
せーし……?

すごい！
ねばねばっ！

ぬちっ

ぬちっ

なんだか
楽しそうだ

本人が
興味深々で
仕方なかった……

性教育の
範囲内
……という
ことにしよう

ねえ、上手に
できましたか？

ああ
最高だった

むしろ上手すぎて
おじさんは
少しびっくり
したらいいだよ

おじさん
おじさん





俺は君を

20年待ったんだ…



頼まれたって
手放すものか…

あ…かい





あれ？
にじゅう…ねん？

あみみ

しまった…
つい熱が入って…

うまく
ごまかさねば



俺は言葉にするのが
得意な方じゃ
ないんだが…

とにかく
長いこと君を
探していて…

やっと
家族になれて
幸せ…だと…
思ってる

それに君が立派な
大人になる頃には
俺はじーさんだ

家事も身の回りの事も
出来なくなる日が
いつか来るだろう…



……
そして



えーっ!?

あかいに
出来ないこと
なんてあるの…?

そりゃ
今は何でも
出来るが…

はげっ

でも

30年後には俺が
世話される側に
なってるさ…

ふーん



先に逝くのだろう



いずれ彼を残して



そして俺は



それでも
魂が抜ける
その刹那まで

彼の近くに
居たいと思う

ひとりに戻りたく
ないのは
俺も一緒だ…



降谷零を
探し続けた
20年……

孤独の重さは
十分に知っている

記憶を取り
戻した君が

望むにしろ
望まないにしろ

だから俺の方から
お願いするさ

手放す
つもりなど
毛頭ない…

改めて



俺が死ぬまで

一瞬だけど
あかいが

まっしろな
服を着ているように
見えた…

心の中がふわふわで
でいっぱい

ずっとそばに
いてくれ…

それに…
なぜかこの言葉を
言われたのは

初めてじゃない
気がした





タイトルは頭をなでてもらってる間だけ悪夢から解放される…
という意味を込めてつけました。

転生ものは手を出すと長いから…と思い我慢してたのですが
別の世界で境遇を変えても引かれ合う赤安がみたくて…つい。
あとスコッチ大好きなので描けて嬉しいです…！
スコッチはゼロの1番の友達だけど
二人の仲に関しては一歩引く見守りポジでいてほしい…

あと入らなかったけど「実はスコッチの方が先に零を見つけてたけど
傷つけそうで赤井に手紙を出した」という設定がありました。

3人とも幸せにするまで終われないので原稿がんばります！
続編は2月予定です。

お手に取っていただきありがとうございました！

D. CONAN Fanbook #3
Akai*Amuro
2017. 09. 10

Beccoro/谷代おてん
iimmill@yahoo.co.jp
pixiv:14177974

印刷 ねこのしっぽ様

※無断転載・複製・オークション出品を禁じます。

後日、寝てる間ならOKということで
こっそり様子を見に来たスコッチ。



君は若い…俺以外の人と
歩む道も選べたんだぞ

その言葉

そのまま
お返ししますよ

宮野明美は
この世界にも
健在している…

調べたんです

次回予告

指先の蜃気楼[後編]

-SAIGO HA HAPIEN DAYO-

ねえ
僕を選んだのは
同情？責任？
あ…両方か

降谷零は泣いてる
友達を見捨てる
ような奴なのか？

しないよ…

そんなこと

お前はいつも
大事なことは
何も言ってくれない

赤井…
お前はまた…

俺を残して
死ぬのか…？



2017. 09. 10
D. CONAN Fanbook #03
Akai*Amuro
Presented by Beccoro